

中小企業ぎふ

2015 2016

12・1

Vol.640

2016年1月25日発行

～ 立ちあがろう中小企業、日本のために ～



クローズアップ企業

2～3

岐阜県製麺
協同組合
組合員

「小林生麺株式会社」



- 会員組合紹介 4～5
- 中央会の活動 6～9
- 組合等の活動 10
- Pick Up情報 11
- 12月の景況レポート 12～13
- 職員レポート 14
- インフォメーション 15
- 年賀広告 16～20



“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市数田南5丁目14番53号 ふれあい福寿会館9階
TEL 058 - 277-1100(代) FAX 058-273-3930
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

クローズアップ企業

小林生麺株式会社

【岐阜県製麺協同組合・組合員】



《企業概要》 岐阜市白山町2丁目23番地5
小林生麺株式会社 代表取締役 小林 俊夫
<http://www.kobayashiseimen.jp/>

昭和38年に製麺業を営む事業者155社で組織した「岐阜県製麺協同組合」は、共同事業によって組合員の事業の近代化や合理化を図ることを組合活動の基本としており、組合員に対する経営技術改善のための教育や情報提供を心掛けています。

昭和42年には、学校給食麺部会を発足させ学校給食に取り組んだほか、平成15年からは、11月11日「めんの日」の行事として、県内の福祉施設に麺の寄贈を続けています。また、平成25年には設立50年という大きな節目を迎えました。組合では、共存共栄をしていくための大切な役割を果たすよう、各種事業に取り組んでいます。

今回は、米粉麺の生産に取り組み、「グルテンフリーヌードル フェットチーネ(玄米麺)」でFOODEX美食女子グランプリ2015のグランプリを受賞した「小林生麺株式会社」を訪問し、小林俊夫社長にお話をうかがってきました。

◎御社のこれまでの沿革について ご紹介ください。

小林社長

当社は父親が戦後間もない昭和22年に創業した会社です。父は北海道の余市の出身ですが、縁あって岐阜の地で生麺の製造を始めました。昭和30年に新しい取り組みとして、当時まだ全国的にも珍しかった「餃子皮」の製造に着手した



小林俊夫社長

のですが、これが当社の礎を築いたと言っても過言ではないほど、会社の基礎を作り出してくれました。北海道の県民性としてよく言われるのがフロンティアスピリッツですが、父もその精神を持っていたと思うし、私もその精神を引き継いでいると思っています。

昭和40年代後半には父の跡を継ぐという使命もあって会社を手伝うようになり、昭和56年に「小林生麺株式会社」に法人化しました。また、新しい商品づくりにも挑戦し、生パスタや冷麺の生産に取り組みました。20年以上前になりますが、中央会のお世話になってこれらを東京の展示会へ出展したのを覚えています。その後も生産ラインの増設や工場の新設などを行いながら現在に至っています。

当社はおよそ70年、安全・安心、そしておいしい麺類づくりに携わってきました。食事をしている時こそ、人がもっとも人間らしさを感じられる時間であると考えています。その大切な時間を少しでも楽しくそして安心できるものにするためのお手伝いをすることが当社の仕事です。

◎御社の特徴や方針を 教えてください。

小林社長

当社の方針は、生麺のおいしさにこだわり、最新の技術と職人技で安全・安心の麺を届けることです。最近では健康を考えてノンアレルギー、低カロリー、低たんぱくの商品への注目度が高まっていることから、アレルギーやカロリーという面で優れている米粉を使用した生麺づくりに取り組んでいます。米粉の美味しさやメリットを多くの方々知ってもらうため、試行錯誤を繰り返した結果、今では100%の生米粉麺を製造するメーカーとして注目されるようになり、2015年2月には、世界で最も権威のあるグルテンフリー認証マークを取得することが出来ました。また、FOODEX美食女子グランプリ2015では、「グルテンフリーヌードル フェットチーネ(玄米麺)」でグランプリを受賞しております。

米粉を生で様々な麺類に加工する当社の技術は世界屈指であり、オンリーワン企業だと自負しています。職人気質の頑固さと常に新しい麺への挑戦を忘れることなく、お客様においしさの満足と安全・安心な麺の提供に努めています。

◎組合に期待することは何ですか？

小林社長

組合の役割も昔と変わってきたと思います。経済事業という直接的な利益から、情報提供や人材育成、社会貢献活動といった間接的なメリットへとシフトしている気がします。組合には組合員が抱える悩みや課題などを相談できる組織としての役割を期待します。

もう一つは、飛騨地域には「高山ラーメン」という食文化

がありますが、こうした麺に関する文化を美濃でも出来ないかと思っています。共通して作れる麺の定義を作り、組合員が各メーカーの特徴を活かして定義に即した商品を生産



NYの展示会へ出展

していく。組合でしか出来ない取り組みだと思います。残念ながら業界の仲間が廃業するというニュースも耳にします。中央会の支援をいただきながら、新しい食文化の発信が出来れば岐阜の製麺業界もより活性化するのではないのでしょうか。

◎中央会の支援事業を利用したことによる効果を教えてください

☞ 小林社長

一昨年、スーパーマーケット・トレードショーへの出展について中央会から声を掛けていただきましたが、その際に中央会の支援メニューの中で、出展にあたって展示する商品のブラッシュアップをはじめ、パイヤーとの接し方や商品の見せ方など、様々なアドバイスを専門家から受けるという事業がありました。良いものを作っても売れなければ商品として成就しないという世界で、如何にして売るかを勉強させてもらいました。世の中には良い物だけ時代やニーズにマッチしていない商品、また情報化社会の中に埋もれてしまっている商品が沢山あります。当社の商品は非常にニッチな分野をターゲットにしているので、専門家目線のアドバイスはとても役立ちました。

◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

☞ 小林社長

私は会社を経営していく上で、①品質こそ我が社の命、②お客様の健康、食の安心・安全を大切に、③常に新しい麺の開発にチャレンジする、の3つを大切にしています。お客様と共に歩み、お客様の美味しい笑顔こそが私達

の喜びです。最近若い従業員も増えてきて、活気に満ちた職場となっています。

当社にとって展示会は貴重な営業の機会と捉えています。展示会へは国内外含めて年間8回程出展しています。私は可能な限り他の出展者を見て回り、情報収集や人脈作りに励んでいます。こうした行動が新しい挑戦へのヒントとなっています。まずはチャレンジすることだと思います。



若手社員が米粉麺を製造

◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

☞ 小林社長

今後もラーメンやパスタの生麺づくりをベースに、グルテンフリーヌードルや糖質制限麺に取り組んでいきたいと思っています。現在、グルテンフリー食品はアメリカやEUをはじめ、世界10ヶ国以上に輸出を行っていますが、これをもっと多くの国へと広げ、世界の隅々まで商品を届けていくのが私の願いです。その為には、国内外問わず競争相手が出てきて欲しいと思っています。ライバル企業の出現でシェア争いを心配する声もありますが、それよりも底辺が広がる効果があります。市場の拡大は商売として成り立たせていくためには必要不可欠ですし、特に原価率の高い商品は、市場が大きくなると勝負が難しいです。

私は、麺づくりのパイオニア企業として、皆様の食生活を豊かにしたいと願っています。そしてこれからも日本の真ん中岐阜よりおいしさと元気を世界に発信していきたいと思っています。

【組合概要】

岐阜県製麺協同組合

理事長 堀部伸雄（堀部製粉麵㈱・代表取締役）

〒500-8044 岐阜市万力町1番地の6

URL: <http://www.chuokai-gifu.or.jp/seimen/>

組合員数：24社

主な事業：共同購買事業、教育情報事業



組合 紹介

こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動を行っていますので、皆様の仲間を紹介します。



岐阜県金属工業団地協同組合

- 理事長 今井 哲夫
- 組合員数 50人
- 設立年月 昭和36年9月
- 住所 岐阜県各務原市金属団地173番地
- TEL 058-382-2225
- URL <http://www.g-mecca.jp/>

◆組合の歴史・活動



今井哲夫理事長

各務原市の西側に立地する「岐阜県金属工業団地」は、約29万㎡の敷地面積を誇る県内屈指のモノづくり集積地で、国の中小企業工場集団化事業が施行された昭和36年にその指定第1号として、全国に誕生した10工場団地の一つです。同業種の事業所が集団化し、設

備の近代化とスケールメリットにより大企業に対抗することを目的に設立しました。組合員の業種は多種多様であり、機械金属に関するほとんどの仕事はこの金属団地で処理することが可能です。立地的にも日本のほぼ中央に位置し、東海北陸自動車道の岐阜各務原ICまで数分と交通の便にも恵まれています。

当組合は、相互扶助の下、共同受電事業や金融事業、教育情報事業等を通じて、共存共栄を目指してきました。高速道路別納制度や労務供給事業など、時代の流れと共に廃止した事業もありますが、今後も外部環境に配慮し、組合員が必要とする事業に取り組むことが求められています。現在、当組合では団地内及び施設の維持管理業務として、共同駐車場の維持管理や組合研修センターをはじめとした施設の管理運営、団地内の緑化活動などに取り組んでいます。また、共同受電事業は組合員へのメリットとして大きな効果を上げており、安価で安定した電力を供給するため、組合で電気設備の点検等を行い、安全の確保に努めています。

その他にも活路開拓ビジョン調査事業や人材確保推進事業といった各種補助事業も積極的に実施してきました。教育情報事業では、昭和49年に創刊した機関誌「金属団地ニュース」が今年5月に発行数500回を達成する予定です。また、金融事業や福利厚生事業も充実させており、環境問題や地域への貢献活動等にも積極的に取り組んでいます。

◆組合が目指す方向性とは

先人が築いてくれた伝統を守ることも重要ですが、企業間格差などにより組合員間でニーズの違いも生まれています。故に金属団地は、核になる企業（自動車関係、工作機械関係、航空機関係等）が数社できて、そこから団地内の企業に協力要請し、この中で全てが処理できる体制を構築できれば、集団化のメリットが活かして共存共栄が図られるのではないかと考えています。各組合員が自助努力という基本を踏まえた上で、相互に援助・協力が出来るような組織が理想だと思います。

当組合は、平成23年に創立50周年を迎え、次の60年、70年、そして100年に向けて1年1年を大切にしながら歩みを進めています。しかし、業界の今後については決して楽観視できる状況にはありません。日本社会は少子高齢化という重要な課題を抱えており、今後の製造業における経営のキーワードは、技術伝承も含めた「人材確保・育成」だと思います。こうした意味からも、後継者育成を図るため青年部活動に力を入れています。展示会への出展や東北地域でのボランティア活動、中学校でモノづくりの魅力や楽しさを伝えるべくロボットコンテストを開催するなど、活発に活動しています。

今井理事長は「当組合は、『金属団地の価値を高めるにはどうすれば良いか』という目標に向かって役職員一丸となって頑張っている。組合の価値や魅力が高まれば、組合員の価値もおのずと高くなる。賦課金に頼らず共同事業による収益で組合運営を行い、状況に応じて利用分量配当によって財政面で組合員の支援ができれば、組合の付加価値も上がるのではないかと。若い人達の意見も取り入れながら、従来とは異なる柔軟な発想で厳しい時代を切り抜けていきたい。そして、金属団地はこれからも『技術力』と『創造力』に磨きをかけ、更なる成長・発展を遂げるため、“協同と調和・相互扶助の精神”をキーワードに新しい未来に向かって前進していく」と今後の抱負を話しました。



青年部による東北でのボランティア活動

西濃電気工事協同組合

- 理事長 高橋 勤
- 組合員数 133人
- 設立年月 昭和45年11月
- 住所 岐阜県大垣市大池町16番地の3
- TEL 0584-73-8343
- URL <http://www.mirai.ne.jp/~seinoden/>

◆組合の歴史・活動



高橋勤理事長

昭和31年、西濃1市5郡の電気工事業者で任意組合「西濃電気工事組合」を組織したのが当組合の始まりです。その後、昭和45年11月に電気の共同保守管理事業等の共同受注や電線・工具等の共同購買などの事業を行うため、組合員数137名で法人化しました。設立当時の

日本は、高度成長時代の真っただ中で、豊かな暮らしに向けて電力消費量も右肩上がりに伸びていた時代でした。

昭和48年に念願だった西濃電気会館を建設しました。会館の管理・運営は組合事業の一つとなっており、多くの会議や研修会・講習会等を開催してきました。この会館は組合の歴史を40年以上に亘って見届けきたシンボリックな施設です。

昭和57年には後継者の育成と組合指導者の育成を図るため青年部会を結成しました。青年部員も忙しいため、活動がままならない事も多いですが、将来は組合役員となって組合運営を担い、支えてくれる人材になってほしいと思っています。

当組合の運営では2つの委員会を設けて各種事業を実施しています。今は点検業務の共同受注や共同購買といった共同経済事業の需要は低くなりましたが、一方で人材育成は充実させています。例えば、適正価格を確立するために必要な積算の指導や業界の実態調査による把握等に努め、経営の改善と安定に取り組んでいます。また技術向上を図るための技術講習や安全教育も開催し、組合員企業で働く若年労働者向けには電気工事士受験の準備講習会等を開催しています。その他、昭和41年から労働保険事務組合の業務も事業として、組合員の事務処理負担の軽減に大きく貢献しています。

◆組合が目指す方向性とは

当組合もピークの頃には200名を越す組合員がいました。しかし、社会構造の変化や組合員の高齢化など様々な要因により、今では6割程度までに減少してしまいました。周りの組合を見ても同じ様な傾向となっており、組合員の減少は組合の経営基盤の弱体化につながりかねず、こうした意味からも今後の組合運営はますます難しくなっていくと思われます。業界を取り巻く環境は、今年4月から電力の小売が完全自由化され、さらに4年後の2020年4月からは電力会社の発送電分離が実施されるなど、これまでに比べ大きく変化していくこととなります。今年は任意組合の時代から数えて60年が経過し、また東京オリンピックが開催される2020年には組合設立50年という大きな節目を迎えます。

高橋理事長は「業界が抱える課題の一つに技術者不足があり、組合が目指すべき方向は『教育機関』だと思っている。若年者数の減少が年々深刻化する中で、中小企業は人材確保に苦勞している。組合員が確保した貴重な人材を電気屋のプロに育てるのは教育が重要である。組合員からも後継者育成や従業員育成が求められており、業界発展に人材育成は欠かせないと考えている。本組合の敷地内には充実した研修環境が整っており、組合主催による事業はもちろん、組合員にも自由に利用できるよう開放しているので、実技訓練に励んで腕を磨いて貰いたい。また、西濃地域2市9町とは『災害時における応急対策活動に関する協定』を締結している。今後はボランティア活動、工業高校等での人材育成など、社会貢献活動にも尽力していきたい」と今後の業界の役割について話されました。

なお、当組合は電気設備工事のコンサルタントですので、どんなことでもご相談下さい。



実技訓練に励む若手従業員

会長新春インタビュー

平成28年、明けましておめでとうございます。年頭にあたり会員の皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、日本経済は、原油安にも恵まれ、緩やかな回復基調にあると言われておりますが、人口減少・超高齢化社会による構造的な需要減少に加え、中国市場の不安要素を抱えるなど、その先行きは予断を許さない状況にあります。

また、中小・小規模事業者においては、投資による生産性の向上が図れない中、人件費や仕入価格などコスト上昇に見合った価格転嫁の遅れ等により、景気回復の恩恵を受けられない厳しい環境下に置かれています。

こうした中で、本会では中小企業及び中小企業組合の活力ある発展のため、経営革新、技術開発、経営資源(技術力、マーケティング力、ブランド力、人材等)の確保の促進、海外を含めた新たな販路開拓及び販売方法など様々な課題に対応する事業を行ってまいりました。

今年も中央会は、会員の皆様から生の声を聞き、オーダーメイドによる支援や事業に重点を置いて、会員の皆様の活動を応援しながら期待に応えていく所存です。今後ともよろしく願い申し上げます。

『組合のニーズに応えるパートナー・中央会』

～立ちあがろう中小企業、日本のために～

❖昨年を振り返って

中央会は『組合のニーズに応えるパートナー・中央会～立ちあがろう中小企業、日本のために～』をスローガンに掲げ、組合及び中小企業のサポート役を担ってきた。近年は、組合の活性化を図るための巡回や相談指導を中心に業務を進め、その中からニーズを拾って専門家による支援を行うなど、前向きな事業に取り組んできた。また、引き続き国の補正予算で措置されている所謂「ものづくり補助金」の地域事務局としての活動も継続しており、中小企業者から注目される団体となっている。

中央会は、県内約600の組合等で組織しており、その傘下には約3万8千社が繋がっている。昨年、中央会は創立60周年を迎え、11月には盛大に記念式典を開催した。人間で言うと還暦を迎えたという組織ではあるが、職員には新たな気持ちで与えられた使命や責務を全うして欲しいと伝えている。

❖今年の見通し

グローバル化が叫ばれて久しいが、私は中小企業の海外進出はこれからが本番だと思っている。経験談で恐縮だが、東南アジアを訪問した際、現地の中小企業からは日本の中小企業と連携したいという熱意が感じられた。その理由は、日本の中小企業は技術力が高いことは勿論、アジアの中小企業と比べて規模が大きく、また大企業よりも意思決定スピードが速いため、ビジネスパートナーとして最適と捉えているようだ。今後はアジアの企業も成長してくると思うので、今が進出のチャンスだと感じている。

もう一つは人材についてであるが、中小企業の人材不足は深刻化している。こうした中で、私の会社では定年を超えた社員も希望すれば引き続き働いてくれている。健康で経験豊富な人材を活用していくことが中小企業では主流になってくるのではないかと。

また、ものづくり補助金についても今年度補正で昨年と同規模程度の予算が計上されており、平成26年度補正の採択事業者については、現在、事業に取り組んでいる状況にあることから、引き続き地域事務局としてしっかりと役割を果たす必要があると思っている。

❖中央会の活動と方針

本会では、平成26年度より『組合』ブランドを発進し、中小企業の地位向上をはかる!～という支援目標を掲げて事業活動を進めてきた。

そのため本会では、恒常的活動である巡回及び窓口での相談等で把握した組合及び中小企業者の事業ニーズや課題等に対して、各種研修会や専門家派遣事業等により、組合等の新たな活路の発掘、あるいは活路実現化に向けた行動計画や指針の策定のほか、多様な課題解決に向けたヒントの提示や解決策の提案といったレベルの支援を行ってきたが、平成28年度はその動きを加速、そして一歩前進させ、“具体的な事業をスタートさせる”あるいは“課題等解決策を実行する”といった段階の支援も展開していきたい。

具体的には、①『組合』ブランドの強化による組合等の再活性化促進、②『組合』ブランドの発進による普及・拡散、③『組合』ブランドの深化に繋げる調査研究活動、④『組合』ブランドの向上を担う人材の確保・育成、⑤『組合』ブランドの確立に向けた政策の提言、⑥『組合』ブランドの推進に向けた中央会機能の強化、この6つの活動基本方針を中心に組合のニーズにあった事業を、組合の実情に応じて効率的、効果的な組み立てを行い実施していく。

中央会は、中小企業連携組織の専門機関として、組合等の経営基盤の強化を図り、「組合」の価値そして中小企業者の経営力向上を目指していく。



インタビューに応じる社長

理事会並びに役員交流会を開催

中央会は、理事会及び講演会、並びに役員交流会を11月30日にホテルパークで開催した。

理事会には本会役員41名が出席し、来年度の事業計画及び収支予算の概案等について審議したほか、今年度の主な事業の進捗状況等について報告した。

また、中部経済産業局の波多野淳彦局長より「中部地域の産業の展望と課題」をテーマに講演会を行い、理事会終了後には、古田肇岐阜県知事を迎えて役員交流会を開催した。

【理事会】

開会にあたり社会長は「11月に開催した60周年記念式典の折にはご協力をいただき感謝申し上げます。中央会はものづくり補助金の地域事務局を担ってきた。本県は3年間で約72億の補助金が交付される見込みであり、次年度も継続できるよう陳情を重ねている。また、中小企業の活路の一つに海外進出があるが、技術力の高い日本の中小企業が海外から求められていると感じている。海外進出はこれからが本番だと思っているので、今後も中央会として支援を続けていきたい」とあいさつした。

続いて議案審議に入り、平成28年度事業計画（案）及び収支予算（案）の概案の承認について審議し、原案どおり可決決定した。また、新規加入組合等のほか、本年度の主な事業の進捗状況、本会の会費賦課基準の検討結果などについても報告を行った。

なお、平成28年度第1回理事会は、4月22日（金）にふれあい福寿会館「大会議室」、第61回通常総会は、6月9日（木）の15時30分より岐阜都ホテル「ボールルーム」で開催します。

新規加入組合等は次のとおり（平成27年4月22日～平成27年11月29日まで）。※（ ）内は所在地、組合員数。

【1号会員】▽東海産業サポート事業協同組合（加茂郡富加町・7名）▽協同組合中津川建設協会（中津川市・27名）▽GS事業協同組合（岐阜市・12名）

【講演会】

中部経済産業局の波多野局長は「2015年の四半期毎のGDPの推移について、中部県内は良い雰囲気であったが、全国的にはあまり良くなかった。2014年の就業者数は6,351万人で、ここ数年は横ばいで推移している。男性就業者数が減少する一方、女性及び65歳以上の就業者数が増加している。この辺りの労働力の動向が日本経済のポイントになると思われる。アベノミクス第二ステージ（新3本の矢）については、第一に2020年に600兆年の経済規模を目指すこととしている。バブル期が550兆円弱で、昨年が490兆円、15年は510兆円と予測しており、実現には設備投資、賃上げ、輸出増が必要だと考えている。また、第二に出生率を1.5から1.8を目指し、第三は介護離職率ゼロを目指すとしている。全体の感触として中部地域は日本経済全体より良い数値が出ている。まずは会社の業績を黒字にして頂き、新しい投資を行って欲しい。投資が難しければ、従業員の賃金を上げて頂きたいが、これも難しければ交際費に利用してもらいたい。いずれにしても日本経済を支えていくのは中小企業の皆様だと思っている」と説明するなど、中部地域の産業の展望と課題について解説した。



講演する波多野局長

【役員交流会】

古田肇岐阜県知事をはじめ、多くの来賓が出席して役員交流会を開催した。古田知事は開会にあたり「中央会は60周年を迎えられ改めてお祝いを申し上げます。社会長は理事時代も含めると31年間中央会の役員としてご尽力をされており、敬意を表したい。景気は緩やかな回復基調と言われているが、特に人材確保は共通の課題となっており、産学金官が連携して対応していきたいと考えている。岐阜県は、企業誘致については引き続き全国トップクラスの水準を維持しており、移住先としても人気が高い。また、外国人宿泊客の伸び率も凄まじく、今年は100万人に届くかという勢いで推移している。いずれにしても、政府の掲げる“地方創生”、“まち・ひと・しごと創成”について岐阜県の魅力でもって実現するために頑張りたい」とあいさつした。



古田知事が来賓あいさつ



社会長が理事会であいさつ

『団結は力 見せよう組合の底力!~組合でひろがる中小企業の発展~』 第67回中小企業団体全国大会(沖縄県)

全国中小企業団体中央会と都道府県中小企業団体中央会は、組合組織を基盤にして中小企業の安定的な振興発展を目指すため、11月20日(金)に沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで「第67回中小企業団体全国大会」を開催した。

この大会は、全国の中小企業団体の代表者が一堂に会し、中小企業者自らが組織する全国約3万組合等が有する差し迫った意見を総意としてとりまとめ、これを内外に広く表明するとともに、中小企業者による中小企業者の持続的発展のための組織である組合等をはじめとする連携組織の発展に向けた不断の努力を決意することにより中小企業の振興施策の強化、安定した中小企業の成長と豊かな地域社会の実現を図ることを目的に開催している。

大会には全国各地から約2,300人が参集し、本県からは会員組合など31名が参加した。星野剛士経済産業大臣政務官をはじめ多数の来賓が出席する中、開会宣言に続いて全国中央会の大村会長は「組合等が組合制度の原点である『相互扶助の精神』のもと、団結の力を再確認するとともに、持続的な発展と豊かな地域社会の実現を図るための施策の推進を、政府を始めとする関係各方面に全力で働きかけるよう努力していく」と主催者を代表して挨拶した。

大会は予定されていたプログラムに沿って進行され、第一部は優良組合、組合功労者、中央会優秀専従者に対する表彰式が行われた。また、第二部では沖縄県中央会の津波古会長が議長を務めて議事を進行し、「景気対策、被災地を含めた地域の活性化」、「生産性の向上」、「持続的成長の促進」等を具体化し、全国385万の中小・小規模事業者の事業の持続的発展を実現するための中小企業対策の拡充に関する14項目を決議した。大会の間には琉球舞踊のアトラクションが披露されたほか、会場外では沖縄の伝統工芸品や泡盛等が販売された。

なお、来年度の全国大会は平成28年10月19日(水)に石川県金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」で開催する予定です。決議事項は次のとおり。詳しくは、全国中央会ホームページからご覧下さい。

(<http://www.chuokai.or.jp/event/event-01.htm>)

I. 景気対策、被災地を含めた地域の活性化

1. 景気対策、被災地を含めた地域の活性化
2. 中小・小規模事業者の持続的発展
3. 福島・被災地の復興の加速化

II. 生産性の向上

4. 組合等連携組織等を活用した生産性の向上の強化
5. 海外展開の推進
6. 電力コストの軽減等に向けた環境・エネルギー対策の強化
7. 公正な競争環境の整備
8. 官公需対策による経営支援の強化
9. 中央会等の支援体制の整備・強化

III. 持続的成長の促進

10. 資金調達の円滑化等
11. 投資等を促進する税制の拡充
12. まちづくりの推進、商業対策の拡充強化
13. 社会保障制度の見直し
14. 中小企業の実態を踏まえた労働・教育対策の推進



議案審議を行う会場内

官公需確保に向けてフォーラムを開催

中央会と岐阜県建設関連業団体部会(荒川晶一部会長)は、中小企業の官公需確保を支援するため、11月26日に「県官公需フォーラム」をホテルグランヴェール岐山で開催し、部会員22名が参加した。

県担当者との懇談会では、村瀬副部会長並びに県土整備部の宗宮裕雄土木技監からのあいさつに続いて、県担当者から事前に出された要望に対する回答があり、部会員から業界の状況等が報告された。

また、県議会幹部議員との懇談会では、森正弘副議長をはじめ、小原尚(総務)、篠田徹(企画経済)、山本勝敏(厚生環境)、酒向薫(農林)、松岡正人(土木)、水野正敏(教育警察)の各常任委員長、部会顧問の猫田孝県議に出席を賜り、各部会員が業界の抱える課題等について要望した。

出席議員の方々からそれぞれ所見が述べられ、最後に猫田部会顧問が「今後は県有施設の建て替え工事等が控えており明るい話題もあるので、各業界が一致団結して頑張っていたきたい」と激励し、懇談会を締めくくった。



県議会幹部議員との懇談会

青年中央会が視察事業&青年部訪問事業を実施

青年中央会は、会員の資質向上を図ることを目的に、11月25日に山県市にある(株)田中金属製作所の企業視察を行い、林会長をはじめ15名が参加した。

同社は、水栓バルブの金属部品メーカーとして長年蓄積した流水制御技術、真鍮の切削加工技術及び樹脂素材への転換技術を活用し、'水に空気を混ぜる'という要素技術を基に「マイクロナノバブル」のシャワーヘッドを開発した。開発した製品が生み出す気泡は、他社のマイクロバブルよりも細かく、長期間にわたって浮き上がらずに水中に留まり、かつ再び水に溶けこまない点が特徴。良い商品を作っても、売る方法が不十分では売れるものも売れないと考え、既存の顧客だけでなく、個人消費者向けに販路を拡大するため、社長自らが『誰にも負けない努力』という経営理念に基づき、DIYチェーン店の店頭で毎週土日に実演販売を行い、販売実績を伸ばしてきた。従業員数23名でありながら、独自の技術力を活かした製品を作り上げ、「マイクロナノバブル」のシャワーヘッドを生み出した開発の経緯や販売戦略についての説明があり、参加者からは「社長自らが動き続ける姿勢に感銘を受けた」といった感想が聞かれた。

また、青年中央会では12月より組合青年部訪問に取り組んでいる。平成24年度に同様の訪問を行っているが、訪問した組合青年部の中には、青年中央会に対する理解が深まり、各事業への参加者が増えた青年部もあったことから、今年度の事業として実施した。

昨年度新たに加入した青年部をはじめ5組合の青年部を訪ね、林会長と各副会長がペアとなって青年部長と活動状況や課題等について意見交換を行い、部員の減少により青年部活動が活発に出来なくなることへの不安を抱えている青年部が多数あることが分かった。また、青年中央会の事業に参加し、他業種の人達と意見交換することで仕事のヒントになったとの意見や青年中央会事業の中で自分達の仕事をアピールする場が欲しいとの要望もあり、林会長は「今後の青年中央会の活動の参考にしたい」と回答した。



担当者の説明を聞く参加者

「レディース中央会全国フォーラムinしまね」に参加

女性経営者の資質向上と組合女性部の組織強化を図ることを目的に、「レディース中央会全国フォーラムinしまね」が11月12日に島根県松江市で開催された。フォーラムには、全国の組合に関係する女性経営者など約160人が参集し、本会レディースクラブからは11名が参加した。

基調講演では、NPO法人ファザーリングジャパンの安藤哲也代表理事より、「イクボス推進による人材生産性の向上～人口減少・女性活躍時代の経営・マネジメントとは?～」をテーマに講演が行われ、女性の活躍推進やイクメンなど社員の働き方が多様化する中で、新しい時代の理想の上司としてイクボスを提唱し、男性社員の育児や介護への参加と残業のない働き方をするためのワークライフバランスを提案した。

続いて行われたパネルディスカッションでは、イクボスの事例発表があり、パネラーの一人、島根県女性協議会の古志野副会長が自社の取り組みを紹介し、参加者は身近な実践者の話に関心を寄せていた。

また、交流パーティーでは、全国からの参加者で情報交換や交流が和やかに行われる中、島根県女性協議会会員の温泉旅館女将がどじょう掘り踊りを披露し会場を沸かせたほか、参加者の親睦をより深めるための2次会も開催された。なお、来年度は11月に三重県での開催が予定されている。



本県から11名が参加

県内17社が「中小企業 新ものづくり・新サービス展」に出展

全国中央会が主催する「中小企業 新ものづくり・新サービス展」の中部ブロックが12月2～3日にポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)で開催された。

同展示会は、事業化促進の支援を目的に全国6ブロックで行われ、H24年度補正及びH25年度補正で「ものづくり補助事業」に取り組んだ事業者が、補助金を活用して開発した新製品、サービス、技術等を展示して、その成果を発表することで販路開拓、市場創出、企業間連携の実現、情報収集・交換などのビジネスチャンスとなった。

県内からは17社が出展し、開発した商品や技術を紹介したパネル等を展示して、事業の成果を来場者にPRするとともに、他の出展者等とも懇談するなど、事業成果を今後のビジネスに繋げようと積極的に取り組んだ。

また、エコノミストの門倉貴史氏など著名講師陣によるセミナーや出展者と来場者を「つなぐ」商談コーナーも設置され、会場内は多数の来場者で賑わった。



133社が出展した展示会場

組合等の活動

岐阜テクノフェアで匠の技を披露

(一社)岐阜県工業会が11月13・14日に岐阜メモリアルセンターで開催した「ものづくり岐阜テクノフェア2015」に、県内の組合等が出展し、匠の技を披露した。

隔年で開催され今回が7回目となった同フェアは、県内外の企業、大学、研究機関などが独自の技術や商品を紹介する場となっており、2日間で数万人が来場するイベント。今回初めて「岐阜県伝統・郷土工芸品・地場産品展」を同時開催し、岐阜県鋳物工業(協)や岐阜提灯(協)、(協)岐阜市土産品協会といった協同組合をはじめ、美濃焼やタイル、美濃和紙、木工などの業界も出展し、ものづくりの魅力や伝統技術をアピールした。

県鋳物工業(協)のブースでは、組合青年部が主体となって企画したキャラクターメダルづくりが体験できるワークショップを実施し、世界に誇る日本の鋳物技術の伝承に努める取り組みを紹介。組合では「メダルづくりの体験を通じて、伝統ある鋳物技術の一端を垣間見てもらえれば」と話していた。



メダルづくりを行う青年部員

美濃和紙の里会館で「美濃手すき和紙展」を実施

●美濃手すき和紙協同組合(武井柳一理事長)

美濃手すき和紙協同組合は、11月27日から1月25日まで、美濃市の美濃和紙の里会館で「フォーカス美濃手すき和紙展」を開催した。

同展示会は、2014年11月にユネスコの無形文化遺産に本美濃紙を含む「和紙：日本の手漉和紙技術」が登録されてから1周年を迎えたのに合わせて実施し、会場には美濃和紙の製造工程を解説したパネルや紙すきに使われる道具などが展示されたほか、障子や表具といった和紙の使われ方も紹介するなど、和紙の振興を図った。

また、12月5日には市内で表具店を営む大石代表による美濃手すき和紙を使った本格障子紙の張替え実演も行われ、来場者は興味深そうに見学していた。

組合では「伝統的な美濃の手すき和紙は長年にわたり高級な障子紙として高く評価されてきたばかりでなく、近年は文化財修理などの分野で国内外から注目されている。貴重な伝統の技と素晴らしい文化を大切に次の世代に継承させるため、今後も努力していきたい」と感想を話した。



紙すきに必要な道具を展示

新春恒例の美濃焼新春見本市を開催

●岐阜県陶磁器工業協同組合連合会(河口一理事長)

岐阜県陶磁器工業協同組合連合会に所属する14組合は、多治見市、土岐市、瑞浪市の4会場で1月7、8日に新春恒例の「2016年美濃焼新春見本市」を開催した。

多治見市のセラミックパークMINOでは笠原・滝呂・市之倉・高田の各陶磁器工業(協)、土岐市のセトピア土岐では土岐津・泉・肥田・土岐津西部・下石・妻木の各陶磁器工業(協)、同市の駄知体育館では駄知陶磁器工業(協)、瑞浪市総合文化センターでは瑞浪・恵那の両陶磁器工業(協)が、それぞれの会場で新作を披露し、各ブースではバイヤーと商談が行われていた。

また1月9、10日には、美濃焼伝統工芸品(協)が土岐市の美濃焼伝統産業会館で開催し、会場は大勢の業界関係者で賑わっていた。この見本市は、各事業所が開発した新商品やオリジナル商品を地元商社等にPRし、売り込むことを目的に開催しており、その年の業界の景況を占う催しとしても注目されている。



新作を披露する新春見本市

「台北国際建築建材及び産品展」に初出展

●全国タイル工業組合(宮川憲太郎理事長)

全国タイル工業組合は、台湾の台北市世界貿易センターで12月10～13日に開催された「台北国際建築建材及び産品展2015」に初出展し、同組合岐阜県支部の12社をはじめ、組合員14社が各種タイルを展示した。

当組合は、これまでアメリカでの展示会「カバーリング・タイル+ストーン・エキスピアリエンズ」に11年間出展し、主に内装(インテリア、水回り)タイルを中心に販路開拓に取り組んできたが、今回は建築物の外装(エクステリア)や外装等にタイルを使う文化のある台湾に着目し、外装用タイルを中心に約60アイテムを展示した。

出展後の報告会では、出展の成果について、「台湾の現地メーカーなどは大形床タイルや長尺ものを中心にPRしているが、デザイン重視のミニモザイクや豊富なカラーバリエーション、汚れ防止やニオイ吸着といった機能性タイルなどにもニーズがあることが把握できた」とした上で、「商談が成立した組合員も数社あり、台湾は“ジャパブランド”にこだわるユーザーが多いことから今後の販路開拓に期待が持てる市場である。ブースでのアテンド方法等に課題が残ったものの、次回も継続出展する方向で検討したい」との意見があった。



組合の展示ブース

「平成27年度中小企業活路開拓調査・実現化事業」取組事例のご紹介

今年度、全国中央会補助事業「中小企業活路開拓調査・実現化事業」に県内3組合等が採択され、それぞれ事業に取り組みましたので、その事業内容をご紹介します。

同事業は中小企業組合等が経済的・社会的環境の変化に対応するため、新たな活路の開拓や単独では解決困難な諸問題などについて、連携して改善・解決を目指すプロジェクトを支援するものです。

1. 岐阜IT協同組合（馬淵雅宣理事長）

①事業テーマ：商品ブランドの強化、販路拡大と組合事業PRのための展示会への出展

②事業内容：中部地区最大の異業種交流展示会「メッセナゴヤ」に出展し、組合員企業の販路拡大や市場に求められる商品づくりのヒントを探る。また、異業種とのビジネスマッチングの機会としても期待しており、事前準備として専門家からアドバイスを得ながら効果的な展示を行うことで、組合及び組合員企業のブランド力UPやビジネスチャンスの拡大を図る。

③事業成果：馬淵理事長は、「組合として組合員同士が統一感を持って事業を進め、展示会に出展できたことに満足している。また、当初の目的であるブランド戦力の強化も果たせたと思っている。この展示会は、ジャンルに関わらず様々な業種の方と出会うきっかけにもなり、岐阜県にはIT関連の組合があるということを知ってもらうことが出来たので、知名度アップに繋がった」とコメントした。



2. 岐阜県陶磁器工業協同組合連合会（河口 一理事長）

①事業テーマ：「美濃焼」酒器の海外販路を目指した展示会への出展

②事業内容：世界約40ヶ国の酒造メーカーや卸業者などがワイン、ブランデー、ビール等の酒類をはじめ、その関連製品を展示する「香港国際ナショナルワイン&スピリッツフェア2015」に出展し、海外での美濃焼酒器の販路拡大を目指す。近年、日本食ブームもあって日本酒の輸出量が増加していることもあり、美濃焼酒器を海外へ売り込むことで新たな市場を獲得する。

③事業成果：当連合会の傘下の中で、昔から「盃」を製造する市之倉陶磁器工業(協)と「徳利」を製造する下石陶磁器工業(協)の組合員が中心となり事業を実施。当連合会の伊藤克紀副理事長（事業委員長）は、「国内需要の減少に伴い、新たな市場の獲得、大規模市場への展開が求められている。こうした意味で海外市場の開拓は最優先事項となっており、本事業によって展示会に出展できたのは組合にとって有益であった。また、日本酒の器としての評価・関心は高く、引合いもあり、今回の成果を今後の商品開発や海外戦略に活かしていきたい」とコメントした。



3. 下石陶磁器工業協同組合（伊藤克紀理事長）

①事業テーマ：陶磁器製品の新たな「ものづくり」を目指した新商品開発

②事業内容：陶磁器メーカーの商品開発力や提案力を強化し、消費者ニーズに対応した商品、売り手（バイヤー）が売りたいと思う商品の開発を行う。新たなものづくりの手法として、陶磁器メーカーとデザイナー、バイヤーが協力してデザイン開発等に取り組む。また、開発した商品を「美濃焼新春見本市」に出展し、バイヤー（商社）等から求評を得ることで、開発した商品の販路開拓を行う。

③事業成果：組合青年部員が中心となり、食器以外の陶磁器製品（インテリア雑貨）の新商品開発に取り組んだ。安田幸正青年部長は、「今回の商品開発手法は、陶磁器メーカーである青年部員にとって学ぶものがあり、また、見本市での求評では、商品開発手法や開発商品に対して一定の評価が得られた。個々の事業者ではなく、組合として活路開拓事業に取り組んだことに価値があると思う。これをきっかけに組合の活性化にもつながれば」とコメントした。



当該事業の詳細は、指導課（058-277-1103）までお尋ね下さい。また、漠然とでも構わないので何かに取り組みたいとお考えの場合は、是非、本会にご相談下さい。全力でサポートさせていただきます！



景況レポート

平成27年
12月末調査
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員69名
(うち69名分の集計)の情報連
絡票から

(I) 12月の特色

- ◆景況感DI値マイナス17
～前月比4ポイントの悪化～
- ◆主要な調査項目のDI値はすべて悪化
- ◆暖冬の影響により、一部の業種で売上の減少や
販売価格の低下が見られる

(II) 12月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、好転4、悪化21で、DI値はマイナス17となり、前月のDI値マイナス13に対し、4ポイントの悪化となった。

さらに業種別の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、製造業のDI値はマイナス19となり、前月比で5ポイントの悪化、非製造業のDI値はマイナス15となり、前月比で3ポイントの悪化となった。

なお、回答のあった69業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、機械・工具販売、下呂温泉旅館、高山旅館の3業種(前月比-2業種)。

また、「悪化」と回答した業種は15業種(前月比+1業種)となっている。

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値はマイナス10で前月比5ポイントの悪化、販売価格DI値はマイナス3で前月比7ポイントの悪化、収益状況DI値はマイナス16で前月比6ポイントの悪化、資金繰りDI値はマイナス12で前月比8ポイントの悪化となり、これら主要な調査項目においては悪化の結果となった。売上高DI値は4ヶ月連続の悪化、収益状況、資金繰りDI値は3ヶ月連続の悪化となった。

コメントを見ると、製造業では、「年末商戦は、前年同月を久しぶりに上回った。(米菓)」、「特注材の注文が増加した。(東濃ひのき)」、「概ね前年同月比で収益が微かに好転。(機械すき和紙)」など、プラスの内容が報告された一方で、「主力の外装モザイクタイルは依然として低調に推移。(タイル)」、「予想以上に悪い。中国経済の状況が良くないとの見方が大勢を示す。(鋳物)」、「景況感は今までの一進一退傾向から悪化傾向に転じつつある。使用電力量は前年同月比3.7%の減少。(可児工業団地)」など、景況感の悪化を伝えるマイナスの内容も報告された。

非製造業では、「食品関連が好調であったため、店舗合計で売上が2%前年同月を上回った。(共同店舗(飛騨地区))」、「年末29日からはほぼ満室状態であった。(高山旅館)」など、プラスの内容が報告された一方で、「おせちの注文も忘年会も前年同月より減少した。(水産物)」、「売上高は、前年同月比で減少となっている(△29.2%)。特に、東海環状自動車道関連工事費の減少によりマイナス(土木(岐阜地区))」など、マイナスの内容も報告された。

また、「暖冬により、コート類を店頭に並べても不振で、売れていない。(メンズアパレル)」、「暖冬の影響で、野菜の販売価格が前年同月より下がっている。(青果)」、「暖冬傾向で推移した為、品目によっては咲きすぎの物も見られた。(生花販売)」、「冬物衣料等、季節需要が盛り上がり、商店街の売上は伸び悩んだ。(高山市商店街)」など、当月も前月に引き続き、暖冬の影響による売上の減少や販売価格の低下を伝える内容が報告された。

<主な調査項目での動向>

売上高の動向は、前年同月比で増加23、減少33でDI値はマイナス10となり、前月のマイナス5に対し、5ポイントの悪化となった。

売上高が増加した業種は16業種(前月比-2業種)あり、食肉(国産)、米菓、家具、東濃ひのき、機械すき和紙、陶磁器(工業)、砂利生産、刃物等金属製品(輸出)、メッキ、陶磁器産地卸、青果販売、共同店舗(飛騨)、下呂温泉旅館、高山旅館、理容・美容業、電気工事である。

売上が減少した業種は23業種(前月比+1業種)あり、特に窯業・土石、卸売業、運輸業の区分で多かった。

販売価格の動向は、前年同月比で上昇11、低下14でDI値はマイナス3となり、前月のプラス4に対し、7ポイントの悪化となった。

販売価格が上昇した業種は8業種(前月比-4業種)あり、牛乳、食肉(国産)、毛織物、家具、特殊紙、碎石生産、水産物商業、下呂温泉旅館である。

販売価格が低下した業種は10業種(前月比+1業種)となった。

収益状況の動向は、前年同月比で好転10、悪化26でDI値はマイナス16となり、前月のマイナス10に対し、6ポイントの悪化となった。

収益状況が好転した業種は7業種(前月比-3業種)あり、東濃ひのき、機械すき和紙、陶磁器(工業)、メッキ、可児工業団地、下呂温泉旅館、高山旅館である。

収益状況が悪化した業種は18業種(前月比+1業種)あり、特に卸売業の区分で多かった。

資金繰りの動向は、前年同月比で好転2、悪化14でDI値はマイナス12となり、前月のマイナス4に対し、8ポイントの悪化となった。

資金繰りが好転した業種は2業種(前月比-3業種)あり、東濃ひのき、下呂温泉旅館である。

資金繰りが悪化した業種は10業種(前月比+2業種)となった。



県内中小企業

(12月末調査)

主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
食 料 品	牛 乳		▲	○	△	△	△	△
	食 肉 (国 産)		○	○	▲	△	△	▲
	菓 子		△	△	△	△	△	△
	米 菓		○	△	△	△	○	△
	製 麵		△	△	△	△	△	△
織 維 ・ 同 製 品	撚 糸		△	△	△	△	△	△
	ニ ッ ト 工 業		△	△	△	△	△	△
	毛 織 物		△	○	△	△	△	△
	合 成 織 維 織 物		△	△	△	△	△	△
	メ ン ス ア パ レ ル		▲	△	△	△	△	▲
婦 人 ・ 子 供 服			▲	▲	▲	▲	△	▲
	縫 製 (既 製 服)		▲	△	▲	▲	△	△
木 材 ・ 木 製 品	製 材		△	△	△	△	△	△
	銘 木		△	△	△	△	△	△
	家 具		○	○	△	△	△	△
紙 紙 加 工 品	機 械 す き 和 紙		○	△	○	△	△	△
	特 殊 紙		△	○	△	△	△	△
紙 加 工 品			△	△	△	△	△	△
	印 刷		△	△	▲	▲	△	△
化 学 ゴ ム	プ ラ ス チ ッ ク		▲	▲	▲	△	△	△
窯 業 ・ 土 石	陶 磁 器 (工 業)		○	△	○	△	△	△
	タ イ ル		▲	△	▲	▲	△	▲
	窯 業 原 料		▲	△	▲	△	△	△
	石 灰		▲	▲	▲	△	△	▲
	生 コ ン ク リ ー ト		▲	△	△	△	△	△
	砂 利 生 産		○	△	△	△	△	△
鉄 鋼 ・ 金 属	碎 石 生 産		△	○	△	△	△	△
	鑄 物		▲	△	△	△	△	▲
	刃 物 等 金 属 製 品 (輸 出)		○	△	△	△	△	△
	刃 物 等 金 属 製 品 (内 需)		△	△	△	△	△	△
一 般 機 械	メ ッ キ		○	△	○	△	○	△
	県 金 属 工 業 団 地		△	△	△	△	△	△
	可 児 工 業 団 地		△	▲	○	▲	▲	▲
輸 送 用 機 器	金 型		△	△	△	△	△	△
	輸 送 用 機 器		△	△	▲	△	△	△

非 製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
卸 売 業	電 設 資 材 卸		▲	△	▲	△	△	▲
	陶 磁 器 産 地 卸		○	△	△	△	△	△
	機 械 ・ 工 具 販 売		▲	△	▲	△	△	○
小 売 業	青 果 販 売		○	▲	△	△	△	△
	水 産 物 商 業		▲	○	△	△	△	▲
	家 電 機 器 販 売		▲	△	▲	▲	△	▲
	メ ガ ネ 販 売		△	△	▲	▲	▲	▲
	中 古 自 動 車 販 売		△	▲	△	△	▲	△
	石 油 製 品 販 売		▲	▲	△	△	△	△
	共 同 店 舗 (飛 騨)		○	△	△	△	△	△
商 店 街	生 花 販 売		▲	△	△	△	△	△
	岐 阜 市 商 店 街		▲	▲	▲	▲	▲	▲
	大 垣 市 商 店 街		△	△	△	△	△	△
サ ー ビ ス 業	高 山 市 商 店 街		△	△	△	△	△	△
	自 動 車 車 体 整 備		△	△	△	△	△	△
	長 良 川 畔 旅 館		△	△	△	△	△	△
	下 呂 温 泉 旅 館		○	○	○	○	△	○
	高 山 旅 館		○	△	○	△	△	○
	ク リ ー ニ ン グ		△	△	△	△	△	△
	広 告 美 術		△	△	△	△	△	△
	旅 行 業		▲	△	▲	▲	△	▲
	理 容 ・ 美 容 業		○	△	△	△	△	△
建 設 業	土 木 (岐 阜 地 区)		▲	▲	▲	△	△	▲
	土 木 (飛 騨 地 区)		△	△	△	△	△	△
	建 築 設 計		▲	▲	▲	▲	△	▲
	鉄 構 造 物		△	△	△	△	△	△
	電 気 工 事		○	△	△	△	△	△
	管 設 備 工 事		△	△	△	△	△	△
	建 築 板 金		△	△	△	△	△	△
	室 内 装 飾		△	△	△	△	△	△
	木 造 建 築		▲	△	▲	△	△	△
	運 輸 業	貨 物 運 送 (県 域)		▲	△	△	△	△
軽 運 送			▲	△	△	△	△	△

凡 例

○ : [増加]、[上昇]、[好転]
 △ : [不変]
 ▲ : [減少]、[下降]、[悪化]

職員レポート

中央会職員が日々の仕事や生活を行う中で感じていることなどを綴る「職員レポート」。第11回は中央会事務局の“平成の怪物”墨（すみ）君に筆を執っていただきました。



入職1年目の振り返りと今後の決意

総務課 主事 墨 紘 貴

昨年4月に中央会に就職しました総務課の墨紘貴です。平成4年生まれの23歳。岐阜県中央会初！の平成生まれとなります。

よく苗字が珍しいと言われ、初対面の方とは出身地の話から始まることが多いです。私の出身は名古屋ですが、この苗字は愛知県の一宮が発祥地と聞かされています。漢字の間違えなどがあり苦勞する事も多々ありますが、反面、一度で覚えてもらえることや話のネタにも出来るため、個人的にオイシイ名前だと思っています。

趣味はプロ野球観戦と洗車です。暇があればテレビで野球観戦をしていますし、休日は時間があれば洗車をしています。私はコテコテのジャイアンツファンですが、セリーグ中心に他球団の動向は常にチェックしているため、他球団の話も出来ます。ジャイアンツでは高橋由伸選手のファンでしたが、昨年原監督の退任から始まった一連の騒動による引退、そして高橋監督の誕生は、2015年を振り返る中で個人的に最も衝撃的なニュースでした。

私の愛車は、97年式、トヨタのセリカで、毎日通勤に乗っています。私自身は中央会最年少ですが、19年目となるこの車はおそらく最年長だと思えます。冬場の寒い時期はサボりがちですが、月2回ぐらいのペースで洗車をしています。定期的に洗車することで、愛車はキレイに保てますし、愛着も出てきて気持ち良く車通勤できます。

中央会に就職した動機は、中小企業組合等の支援業務にやりがいを感じたことは勿論ですが、それに加えて仕事とプライベートの両方を楽しめると思ったからです。中央会からの求人を見つけた時、正直、中央会の存在や組合のことは全く知りませんでした。しかし、人と接することが好きな私には、様々な方々と接する事の出来る中央会の仕事がとても楽しくやりがいのある仕事だと感じました。それに加えて、偶然見かけた本会の情報誌『中小企業ぎふ(Vol.634)』に掲載されていた職員レポート“河田係長のイクメン話”も志望の後押しとなり、中央会への就職を希望した次第です。愛車を大事にする人は、家族も大事にする事と聞いたことがあります。まだ相手はいませんが、私も河田係長のようなイクメンの素質ありと思って頑張っています。

さて、昨年3月に大学を卒業し、中央会で働き始めてからおよそ9ヶ月が経ちました。6月には全国中央会が行う1週間の研修、そして8月から9月にかけての3週間は、中小企業大学校が行っている初任者向けの研修に参加させて頂きました。これらの研修では、中小企業組合等の支援方法や中協法・中団法、組合会計などについて学びました。また、研修には全国各地の中央会から職員が参加するため、勉強以外にも他の参加者との交流の場にもなりました。特に中小企業大学校の研修では、寮で共同生活をするため、互いの親交を深めることが出来ました。研修終了後も「今あの仕事に携わっている」といった連絡を取り合い、互いにモチベーションを高め合うなど、組合支援に係る知識の習得だけでなく人脈形成に繋がり、中央会職員として仕事をする上で貴重な経験となりました。

実際の現場業務について振り返ってみたいと思います。社会人1年目の私にとって、全てが初めての経験で、日々新しい事の発見ばかりでした。本会は組合毎に担当指導員が割当てられており、新人の私にも担当させて頂いている組合があります。私自身、至らない点ばかりで、ご相談頂いた案件にも直ぐに回答できず、時間を置いての回答になってしまいがちですが、早く一人前になって「墨さんが担当で良かった」と言われる指導員になりたいです。そして、一日でも早く、組合や組合員の皆様のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



修了証を受け取る墨主事

最低賃金改正のお知らせ 厚生労働省・岐阜労働局

最低賃金が下記のように改正されました。
(太文字が改正部分)

最低賃金の名称	最低賃金の額	効力発生の日
岐阜県最低賃金	時間額 754円	平成27年10月1日
特定(産業別)最低賃金		
電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具 情報通信機械器具製造業	時間額 815円	平成27年12月21日
自動車・同附属品製造業	時間額 856円	
航空機・同附属品製造業	時間額 902円	

詳しくは、岐阜労働局賃金室（☎:058-245-8104）又はお近くの労働基準監督署までお尋ねください。

JETROと中小機構の連携による海外支援事例集について

(独法)中小企業基盤整備機構とJETROが連携して海外展開支援を行った企業の事例を紹介する事例集が作成されました。

海外展開に取り組んだ中小企業経営者の経験談や、連携して支援に携わった両機関の担当者の声などをまとめた事例集となっています。

事例集は中小機構又はJETROのホームページよりダウンロード出来ますので、興味がある方はご覧ください。

あけましておめでとうございます

昨年は、本会の事業運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

今年は「丙申」。60年前の1956年の日本は神武景気と言われた時期で、戦前の経済水準を超えるまでに回復し、「もはや戦後ではない」と経済白書に記載されました。

本会では今年も“組合から生の声を聞く”ために、会員組合の皆様方を訪問させていただき、ニーズに応じた支援を実施していく所存です。

また、皆様に本誌を活用いただくため、より良い誌面づくりを目指しておりますので、ご意見やご提案をお寄せいただくとともに、組合員の皆様への情報提供などにご活用いただきますようお願い申し上げます。

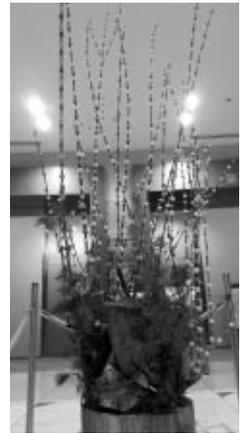


末筆となりましたが、本誌「年賀広告」に多数のご協賛をいただき、誠にありがとうございました。

今年も「花もち」をいただきました

高山市公設市場買受人協同組合（林利夫理事長）より、飛騨の正月を彩る「花もち」を寄贈していただきました。今年もふれあい福寿会館のご厚意で、来館者の皆様にもご覧いただけるよう会館2階ロビーに展示していただきました。

林理事長はじめ、組合役職員、組合員の皆様にお礼申し上げます。



中央会日誌

<11月21日~30日>

27日 岐阜地方労働審議会（ワークプラザ岐阜）

30日 中央会理事会・役員交流会（ホテルパーク）

<12月1日~28日>

3日 労働者派遣事業適正運営協力員会議（岐阜労働局）

8日 岐阜中金会経営者セミナー（ホテルパーク）

15日 若年技能者人材育成支援事業等に係る第2回連携推進会議（グランヴェール岐山）

<1月4日~20日>

18日 地域融資動向に関する情報交換会（岐阜合同庁舎）



地域の未来を 中小企業とともに。



\\ 話せるパートナー \\

商工中金

個人のお客さま向けの定期預金です。

高めの金利設定
(当金庫内比較)

固定金利の半年複利
(元本保証)

1年、2年、3年から
期間が選べる

\\ 安心、確実、お得に増やす \\

定期預金

マイハーベスト

商工中金は、国とともに、中小企業をサポートする公的金融機関です。
お客さまとともに、地域活性化に全国で取り組んでいます。

岐阜支店 058(263)9191

〒500-8828 岐阜市若宮町9-16



人を思う。未来を思う。

商工中金

この広報紙は岐阜県からの助成を受けています。